

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：環境管理推進費

事業名 特定鳥獣保護管理計画策定事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部環境生活政策課生物多様性係 電話番号：058-272-1111(内2922)

E-mail：c11260@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 14,757 千円 (前年度予算額： 3,635 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,635	0	0	0	0	0	0	0	3,635
要求額	14,757	0	0	0	0	0	0	0	14,757
決定額	14,757	0	0	0	0	0	0	0	14,757

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・野生鳥獣（イノシシ、ニホンジカ）の生息調査。
- ・特定鳥獣管理計画（鳥獣保護管理法第7条の2）に基づく特定鳥獣（ニホンカモシカ、ツキノワグマ、イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル）の保護管理の実施。

(2) 事業内容

- ・イノシシ、ニホンジカの生息頭数等について、生息調査を実施し、第二種特定鳥獣管理計画策定の基礎データとする。
- ・狩猟等による捕獲状況や広域的かつ継続的なカメラモニタリングによる調査をもとに生息動向等を把握・分析し、計画（管理目標等）を継続的に見直す。

(3) 県負担・補助率の考え方

野生鳥獣の生息長は、県の環境保全・農林業被害対策を行う上で、政策等を定める際の根拠となる調査である。そのため、県負担が適当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	231	委員等謝金
旅費	819	委員等費用弁償、調査等業務旅費
需用費	976	センサーカメラ、図書等消耗品費、燃料費
役務費	8	
委託料	12,590	生息調査等委託費、狩猟による捕獲状況等分析
使用料	113	会議室使用料、高速道路使用料
負担金	20	
合計	14,757	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律
- ・第13次鳥獣保護管理事業計画（令和4年～令和8年度）
- ・第二種特定鳥獣管理計画
（ニホンカモシカ、ツキノワグマ、イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル）

(2) 国・他県の状況

- ・すべての都道府県で策定

(3) 後年度の財政負担

- ・第13次鳥獣保護管理事業計画に基づき、事業を継続する。

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律により、都道府県が計画を策定することとされている。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
野生鳥獣の生息状況の把握及び適切な保護管理の実施。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						

○指標を設定することができない場合の理由

施策を推進するための調査業務が主であり、目標の設定に適さない。

（これまでの取組内容と成果）

令和 3 年度	<p>県内全域にモニタリングカメラを設置し、野生鳥獣の生息動向等を把握できる体制を整備した。また、堅果類豊凶調査を実施し、調査結果を隣接県と情報共有を図り、ツキノワグマ出没の注意喚起を行った。</p> <p>指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %</p>
令和 4 年度	<p>ツキノワグマ及びニホンザルの生息状況調査を実施し、特定鳥獣管理計画策定における基礎資料として活用。狩猟等による捕獲状況や広域的かつ継続的なカメラモニタリングによる調査をもとに生息動向等を把握及び分析し、計画や管理目標等に活用した。</p> <p>指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %</p>
令和 5 年度	<p>令和7年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	野生鳥獣の生息調査は、全県・全国規模での調査の一環であり、野生鳥獣の保護管理及び自然環境の保全を図る上で重要な指標である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	調査結果は、野生鳥獣の特定鳥獣管理計画に反映されており、期待どおりの成果が得られている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 2	本事業は、他事業の基礎資料として活用されている。また、調査結果は全国規模で情報共有されるなど適切に実施されている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 特定鳥獣管理計画の策定には、野生鳥獣ごとに継続的な調査が必要であり、今後、広域カメラモニタリング調査の結果を精査し、反映する必要がある。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 特定鳥獣管理計画の策定には必須の調査であり、今後も継続的な調査を実施する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】